

## 国際理解教育/開発教育 学習指導（活動）案

## 【実践者】

授業者氏名	鎌田 理子	学校名	千葉市立稲浜中学校
教科（科目）・領域	社会科	対象学年（人数）	1年生（108名）
実践年月日もしくは期間（時数）	2022年12月第1週～第2週（6時間）		

## 【実施概要】

1. 単元名（活動名）： 世界の諸地域 南アメリカ州					
2. 実践する教科・領域： 社会科 地理的分野	3. 学習領域				
		1	2	3	4
	A 多文化社会	文化理解	文化交流	多文化共生	
	B グローバル社会	相互依存	情報化		
	C 地球的課題	人権	環境	平和	開発
	D 未来への選択	歴史認識	市民意識	社会参加	
4. 単元の目標（評価規準を意識して設定）： ・南アメリカ州の地域的特色を諸資料から適切に読み取り、理解する。 ・今後の南アメリカ州の環境問題について「持続可能な開発」の観点から自分の考えをまとめることができる。					
5. 単元の 評価規準	①知識及び技能	・南アメリカ州の地域的特色を諸資料から適切に読み取り、理解している。 ・課題解決に向けて必要な情報をまとめ、発表できる。			
	②思考力、判断力、表現力等	・南アメリカ州で見られる環境問題の要因や影響を、地域特性を踏まえ、多面的・多角的に考察している。 ・南アメリカ州の開発に起因する環境問題の解決に向けて、持続可能な開発の観点から説明している。			
	③学びに向かう力	・南アメリカ州の環境問題と自分たちの暮らしとのつながりを知って環境問題への関心を深め、解決への手立てを考えようとする。			

<p>6. 単元設定の理由・単元の意義</p> <p>(児童/生徒観、教材観、指導観)</p>	<p><b>【単元設定の理由あるいは単元の意義】</b></p> <p>「世界の諸地域」では、地球上の6つの州に暮らす人々の生活の様子を的確に把握できる地理的事象を取りあげ、それを基に「主題」を設けて追究させ、それぞれの州の地域的特色を捉えさせる。各州の学習では、自然環境、歴史と文化、産業などの面から「主題」を軸に州の特色を追究させる。その州に広範囲に見られる特色ある地理的事象を取り上げるが、南アメリカ州は「開発の進展と環境問題」を主題とする。距離的に遠く日ごろからつながりをあまり意識していない地域の環境問題について考えることをねらいとして、本単元を設定した。</p> <p><b>【生徒観】</b></p> <p>1学年の生徒は小学校の社会科でSDGsについて学習しており、中学校の社会科の導入でSDGsに触れた際にも「知っている」「小学校で習ったことがある」という声が多かった。本校は2つの小学校から生徒が入学してきているが、2校間の生徒にSDGsの知識の差はほぼないようである。小学校時代に具体的にSDGsの実現に向けて何かの活動に取り組んだことがあるという生徒はいなかったため、17のゴールについて表面的な知識がもつことに留まっている。地理的分野の世界の諸地域では、アフリカ州とヨーロッパ州の学習を終えているが、その際に「諸地域の課題を自分の生活にもつながる問題としてとらえられたか」という単元末の質問について「考えられた」と答えた生徒がアフリカ州の学習では40%、ヨーロッパ州の学習では59%とやや低い値であった。</p> <p><b>【教材観】</b></p> <p>1学年生徒に対して「世界の諸地域」の6つの州のうち、どの地域とのつながりをもっとも感じるかというアンケートを行った際に、南アメリカ州の数値がもっとも低かった。過去に授業者が他校で同じアンケートを実施した際も同様の結果が出た。これは地理的・歴史的なつながりが少ない地域であるが故の結果だと考えられる。持続可能な社会の創り手となるためには、日ごろから世界の課題を自分の身近な生活とのつながりから考える視点をもつことが大切である。生徒は、地理的にはもちろん心理的にも遠い地域と考えている。そのような南アメリカ州について考えるという地理の学習を通して、課題を自分ごととして捉える姿勢を身に付けてほしいと考えている。</p> <p><b>【指導観】</b></p> <p>既に学習したアフリカ州の単元では、エチオピアで勤務する日本人をゲストティーチャーとしてお招きし、その暮らしについて話をしてもらったことが生徒の興味関心を高めるうえで効果的であった。広い州の例え一か国の限られたゲストティーチャーの話であっても、生徒にとって、それまで「遠く、自分とは直接関係ない」と考えていた地域のことを自分ごととして考えるきっかけになっていた。そこで、今回の南アメリカ州も、現地で勤務する日本人の協力を得て、日本の自分たちの暮らしとのつながりを考えられるような活動を取り入れたい。実際に協力していただくのは、現職派遣制度を使ってJICAボランティア2022年度一次隊に参加されている2名の教員で、ボリビア日系社会の小学校に携わる稲嶺もえ先生、同じくチリで環境教育に携わる吉田大祐先生である。まずは、自然環境、歴史、文化、産業などの面から南アメリカ州を教科書を使用して概観する。その後、ゲストティーチャーをオンライン上でお招きする第3時では、ボリビアの日系社会について稲嶺先生からお話を聞き、第5時、第6時では吉田先生にチリにおける環境問題とそれに対する様々な意見を開設していただき、それらを資料として扱う。</p>
---	---

## 7. 単元計画 (全 6 時間)


時	ねらい	学習活動	資料など
1	<p>「南アメリカ州をながめて」</p> <p>南アメリカ州の基礎的基本的な知識を身につける。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>南アメリカ州の雨温図と南アメリカの降水量を表した地図を照らし合わせ、リマ、ラパス、マナオス、ブエノスアイレスの位置を考える。</li> <li>アンデス山脈、チチカカ湖、アマゾン川、などの主要な地形が載っている白地図を完成させる。</li> <li>南アメリカの人口密度を表した地図を見て、人口密度が低いところと高いところの特徴を考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>南アメリカ州の4地点の雨温図</li> <li>南アメリカ州の降水量を表した地図</li> <li>南アメリカ州の国々のSDGs達成度ランキング(2022)</li> <li>南アメリカ州の</li> </ul>



		<ul style="list-style-type: none"> <li>世界の森林減少率の図を班で分析し、森林減少率が高い国や地域を確認する。</li> <li>教科書に載っている「トライ」の課題「南アメリカ州ではなぜ森林が減少しているのでしょうか」の答えを予想する。</li> </ul>	<p>衛星写真</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>世界の森林減少率のグラフ</li> </ul>
2	<p>「自然環境と共生する生活」</p> <p>南アメリカ州の自然環境の特色を理解し、その伝統的な利用方法を知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>アマゾン川の河口の写真から気づくことを発表する。</li> <li>マナオスの魚市場、熱帯の森林の中に造られた畑の模式図の資料からアマゾン川流域の伝統的な暮らしについて班でまとめて発表する。</li> <li>伝統的な焼き畑農業が大規模な森林破壊につながらなかった理由を考える。</li> <li>ガラパゴス諸島のエコツアーについての解説を聞き、なぜ自然環境の保護を推進しているのか自分の考えを書く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>南アメリカ州の衛星写真</li> <li>アマゾン川流域の伝統的な生活の写真</li> <li>アマゾン川の漁師のコメント</li> <li>ガラパゴス島でのエコツアー資料</li> </ul>
3	<p>「南アメリカで活躍する日系人」</p> <p>日系人について知り、日本と南アメリカ州の歴史的なつながりを考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>世界の日系人の分布とサンパウロの日本人街での七夕まつりの様子の写真について気づいたことを班ごとに発表する。</li> <li>NHK for School の日系移民についての短編動画を視聴する。</li> <li>多くの日系移民が南米に渡った背景に南米での農業労働者の不足や日本での人口押下と深刻な不景気が影響していたことについての解説を聞く。</li> <li>ゲストティーチャーの稲峯先生のお話を Google Meet 上で聞く。</li> <li>稲峯先生に質問をして、回答を聞く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ゲストティーチャー 稲峯先生（2022年度一次隊小学校教育）の解説</li> <li>ボリビアの日系人街「オキナワ」の「オキナワ第一日ボ学校の様子」の写真</li> <li>「オキナワ」の町の動画</li> </ul>
4	<p>「開発の進行と影響①」</p> <p>アマゾン川流域を例に、南アメリカ州の環境問題と開発のバランスについて考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1990年と2000年の南アメリカの衛星写真を比べ、変化した点について考える。</li> <li>大規模な大豆畑の写真と、大豆の生産量と輸出量の国別割合のグラフを見て、前時の焼畑農業との違いを考える。</li> <li>日本の銅鉱石と鉄鉱石の輸入相手国のグラフを見て、南アメリカの国々（銅鉱石輸入1位、ペルー銅鉱石輸入2位、鉄鉱石輸入2位）に着色し、南アメリカの国々と日本の関係についての考えを書く。</li> <li>銅鉱石1位のチリに注目し、鉱山開発の街とその産業廃棄物を受け入れているイジャペル市についての紹介を聞く。</li> <li>イジャペル市の産業廃棄物がもたらす健康被害、アボカド栽培がもたらす地下水の枯渇について知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1990年と2000年の南アメリカの衛星写真</li> <li>大規模な大豆畑の写真と</li> <li>大豆の生産量と輸出量の国別割合のグラフ</li> <li>日本の銅鉱石と鉄鉱石の輸入相手国のグラフ</li> <li>JICA ボランティア 2022年度第1次隊共有写真教材</li> </ul>
5 本時	<p>「開発の進行と影響②」</p> <p>南アメリカ州における環境問題と経済発展について、チリの憲法改正の国民投票結果から両方の立場の意見について考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ゲストティーチャーの吉田先生のお話を Google Meet 上で聞く。</li> <li>チリの北部イジャペル市と首都サンティアゴの2地点の産業の違いについての地図と資料を見る。</li> <li>イジャペルとサンティアゴでのインタビュー資料を見て、経済発展を優先するか、環境保全を優先するかという議論がチリ国内にもあることを考える。</li> <li>憲法改正の国民投票の環境保全の部分についての解説を聞く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ゲストティーチャー 吉田先生（2022年度一次隊環境教育）の解説</li> <li>チリの憲法改正国民投票開票時の様子の写真</li> <li>北部イジャペル市、首都サンティアゴ、南部グレプト市の住人のイ</li> </ul>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゲストティーチャー吉田先生から投票結果についての解説を聞き、自分の考えを発表する。</li> <li>・地域により環境保全に対する考え方が違う理由を考えて発表する。</li> </ul>	インタビュー結果
6	<p>「日本と南アメリカ州のつながり」</p> <p>南アメリカ州における環境問題と自分たちの暮らしのつながりを知り、今の自分にできることを考える。</p> <p>【予想される回答】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アボカドのような南アメリカ州からの輸入品の栽培が現地の環境にどのような影響を与えているかなどを、まず知ることが大切なのではないか。</li> <li>・輸入品は現地での生産過程で、イジャペル市の産業廃棄物の例のように何かしらの影響を与えているので、無駄なく日本で使うことが大切ではないだろうか。</li> <li>・吉田先生を通して日本の中学校で学んだ環境保全の取り組みを現地のモデル校の生徒に伝えてもらうことはできないだろうか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時に使用した資料を見て、イジャペル市の鉱山の有害物質廃棄物処理場が地域住民に与えている影響を振り返る。</li> <li>・ウェビングマップを改良したものを記入する。(①鉱工業開発②現地の人々の生活に伴う開発③開発に関係する国々)</li> <li>・イジャペル市の中学校で使う教材にどのようなものを付け足したらよいか考えて班ごとにホワイトボードに記入し発表し、チリ在住の吉田先生にオンラインでコメントをもらう。</li> <li>・イジャペル市の環境教育モデル校でのSDGs壁画作成の取り組み(2023年予定。開始時期未定)にどのようなメッセージを送りたいか考える。</li> <li>・日本の自分たちの暮らしの中でできる環境保全の取り組みとイジャペル市でできそうなことの共通点を見つける。</li> <li>・南アメリカ州の学習を通して、SDGsのどの目標について特に考えたか、またどの目標を重視して行動するかをアイコンを使って考えてワークシートに記入する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゲストティーチャー吉田先生(2022年度一次隊環境教育)</li> <li>・吉田先生がイジャペル市で使用している環境教育の教材</li> </ul>

## 8. 本時の展開(概略)

本時のねらい: 南アメリカ州における環境問題と経済発展について、チリの憲法改正の国民投票結果から両方の立場の意見について考える。

過程・時間	教師の働きかけ・発問および学習活動	指導上の留意点(支援)	資料(教材)
導入 (5分)	<p>1 前時の振り返り</p> <p>「これらの写真はどこの町のものでしたか? どのような問題を抱えていましたか?」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・チリのイジャペル市の写真</li> <li>・時間がたって乾いた銅の山が近年砂状になって人里まで飛んで健康被害を生み出している。「スーパーでよく見かけるこの食べ物とイジャペル市の川の関わりとは何ですか?」</li> <li>・お金になる作物としてアボカド栽培が広がっており、大量の地下水が使われているため川の水が枯渇している</li> </ul> <p>「現地のごみ処理や環境教育について吉田先生はどのような活動をしていましたか?」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時につながる部分を確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時で使った写真資料(鉱山廃棄物の様子、イジャペル市内の様子、枯れた川の様子)</li> <li>・アボカド(実物)</li> </ul>  <ul style="list-style-type: none"> <li>・イジャペル市で勤務</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リサイクルの啓発活動</li> <li>・環境モデル校での環境教育のプログラム作り</li> <li>・環境モデル校の生徒への授業</li> <li>・市内の自然環境の保全についての啓発活動</li> </ul>		<p>する吉田先生の自己紹介</p>
<p>展開① (30分)</p>	<p>2 本時の目標の確認</p> <p>チリの首都サンティアゴと鉱山の町の人々の意見を比較し環境問題と経済発展について考えよう</p>		
	<p>3 「ゲストティーチャー吉田先生のお話を Google Meet で聞きましょう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>首都の様子を紹介</b>…短期間の滞在であったがあまり日本と変わらない暮らしをしている人が多い印象だった。第3次産業の従事者が多い。人口密度も高い。</li> <li>・<b>イジャペル市の様子を紹介</b>…鉱業に従事している人が多い。非常に乾燥した気候で、農業による水不足も問題になっている。鉱山の廃棄物処理場があるのでそこからの汚染も問題になっている。</li> </ul> <p>4 「みなさんをそれぞれイジャペルと首都サンティアゴの2つの地域の住人という設定のグループに分けました。班内で話し合っ『環境保全は重要だと思うか』という質問に5段階で回答し、黒板にマグネットを貼ってください。</p> <p>【予想される話し合い】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・イジャペル市では環境汚染がひどいので、環境保全は大事だと思う人が多いのではないかな？</li> <li>・イジャペル市の人々には健康被害が出ているので環境保全が大切だと思う人の割合は特に高いのではないかな。</li> <li>・サンティアゴは首都なのでごみや排気ガス問題などもきつとあり、環境保全に対しての意識が高いのではないかな？</li> </ul> <p>5 「経済発展を優先するか、環境保全を優先するかという議論がチリ国内にもあることについての</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・吉田先生はチリに暮らしてまだ4か月ということを確認する。</li> </ul>  <ul style="list-style-type: none"> <li>・クラスを8班に分け、サンディエゴ市民4班イジャペル市民4班とする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サンティアゴの写真と動画(約90秒)</li> <li>・イジャペル市写真と動画(約90秒)</li> <li>・赤マグネット(首都) × 4</li> <li>・黄マグネット(鉱山の町) × 4</li> <li>「環境保全は重要だと思うか」の5段階のスケール</li> </ul>

<p>吉田先生の説明を聞きましょう」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・サンティアゴの都市部では環境保全を重視するべきであるというデモも起きている。</li> <li>・サンティアゴの住人の中でも意識の違いはある。</li> <li>・北部や南部の農業、鉱工業に従事する人が多い地域は環境保全のための規制に反対する人も多いとチリ人の多くは体感している。</li> <li>・イジャペル市でも自分が接している人は環境教育関係者なので、環境保全が大切だという意識が高いと感じる。</li> </ul> <p>6「吉田先生の話聞いて、チリは経済発展と環境保全のどちらを優先すべきかについて班内で話し合い意見をまとめ、代表者が黒板にマグネットを貼って発表しましょう。」</p> <p>【予想される生徒の意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・都市部の人はずでに経済発展を遂げている中で暮らしているので環境保全を重視する人が多いのではないか。</li> <li>・どちらを優先するかは同じ地域でも個人によって意見が分かれるのではないか。</li> <li>・鉱山関係の仕事をしている人は、有害物質の処理が問題になっているとわかっているがそれが規制されすぎると自分の仕事が成り立たなくなると考えるのが当然ではないだろうか。</li> <li>・その人の仕事と何を優先するかが関わってくるのではないか。</li> </ul> <p>7「吉田先生がチリの人にインタビューした結果を聞きましょう。」</p> <p>吉田先生「自分がチリで関わった一部の人たちに憲法改正案の中の環境保全についての意見を聞きました。その人が住んでいる地域と職業に注目して聞いてください。」</p> <p>①首都サンティアゴのスペイン語の先生（首都で生まれ育ち外国人にスペイン語を教える仕事を長くしている）「環境保全に賛成している」</p> <p>②イジャペル市の銅山関係の仕事をしている人「環境保全の規制が強まると仕事に影響が出るため反対」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・後半で触れる憲法改正についても簡単に解説してもらおう。</li> <li>・吉田先生の意見もチリをすべて表しているわけなではないということを確認する。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・4の活動のマグネットもそのままにしておき見比べられるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Google Meet</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ピンクのマグネット</li> </ul> <div data-bbox="1034 1384 1241 1594" data-label="Image"> </div> <p data-bbox="1011 1599 1254 1621">サンティアゴ在住の語学教師</p> <p data-bbox="1091 1626 1187 1666">Chica</p> <div data-bbox="1062 1796 1302 1980" data-label="Image"> </div> <p data-bbox="1110 1989 1286 2011">鉱物関係の仕事に従事</p> <p data-bbox="1142 2016 1254 2056">Miguel</p>
---	---	---

8 「憲法改正についての国民投票についての話を聞きましょう。」

吉田先生「先ほどから話に出ているように、チリでは9月に憲法を改正しようということについて国民投票がありました。ここを変えようというポイントがいくつかあったのですがそのひとつに『環境を守るための規則をもっと増やそう』というのがありました。他のポイントもあったので一概には言えませんが、開票結果を見ると、憲法を変えようという意見が勝っていたのはサンティアゴの一部のみでした。」

9 「ここまでの吉田先生の話聞いて、地域により環境保全に対する考え方が違う理由を考えて発表しましょう。」

- ・北部の人は銅鉱山関連の仕事に就いている人が多いため、憲法改正に反対が多いのではないか。
- ・銅鉱山関連の仕事と関係ない人は、環境規制に賛成の立場をとれるのではないか。
- ・同じ国の中でも意見が分かれる。
- ・環境規制を厳しくすると生活できない人もいるのではないか。
- ・今回の吉田先生のインタビュー以外の意見もたくさんあるのではないか。

10 「本時を通して立場による環境保全への考え方の違いについて自分の意見を書いて発表しましょう。」

- ・自分は環境保全はとても大事なことで当然だと思っていたが、資源の利用が規制されると仕事ができなくて困る人もいることを知った。
- ・環境保全は大切なことだが、立場によってはそれに反対する人もいることがわかった。
- ・サンティアゴの人の環境保全に賛成の意見は自分の意見に近いと感じた。
- ・同じ国の中でも地域や立場によって意見が違うので複雑だと思った。

まとめ  
(10分)



チリの情報サイト“elmostrador”

・開票結果の分布図

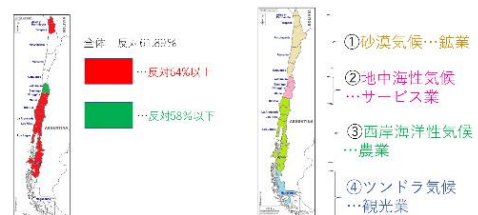


・開票の様子



・地域ごとの憲法改正に対する意見の違い  
(スライド18)

新憲法草案に反対多数の中でも  
Q比較的賛成が多かった地域はどんな地域？



<p>9. 評価規準に基づく本時の評価（評価方法）</p> <p>南アメリカ州における環境問題と経済発展について、チリの憲法改正の国民投票結果から両方の立場の意見について考える。（班内の意見交換・ワークシート）</p>
<p>10. 学習方法および外部との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地理的分野の目標のひとつに「多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて公正に選択・判断すること、思考・判断したことを説明したりそれらを基に議論すること」があるが、それらを達成するためにまず基礎的な知識の習得が大切だと考える。そのために教科書を活用し、南アメリカ州の地理的な特色を理解させる。</li> <li>・南アメリカ州すべての国を扱うことは不可能であるため、具体例として歴史の理解のための一例としてポリビアの日系社会、環境理解のための一例としてチリの鉱山廃棄物の問題を扱う。</li> <li>・オンライン会議システムを利用し、南アメリカ州で活動している JICA ボランティア 2 名に第 3 時、第 5 時、第 6 時の授業の一部参加してもらう。</li> <li>・チリのイジャペル市の環境教育モデル校での SDGs 壁画作成の取り組み（2023 年予定。開始時期未定）に参加する。</li> <li>・11 月 4 日実施の 1 学年校外学習において、JICA 横浜を班別活動の選択コースの 1 つとし、班別活動でそちらを訪れない生徒にも海外移住資料館を事前学習で紹介する。</li> </ul>
<p>11. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取り組み</p> <p>(1) 学校内</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校内研修において実践報告を行う。</li> </ul> <p>(2) 学校外</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・千葉市教育研究会社会科部会において「社会科の授業の中で行う国際理解教育」の発表を行った。</li> <li>・千葉市教育研究会国際教育部会において「世界の諸地域南アメリカ州」の授業実践報告を行う。</li> <li>・千葉県中学校初任者研修東葛飾ブロックで講師として国際理解教育の実践について講義を行った。</li> </ul>

## 【自己評価】

12. 苦勞した点	※学習活動が展開する中での苦勞や、ここで見えてきた問題点を記入して下さい。
13. 改善点	※実践を再度実施することや、他の学校で追試する場合のことを想定して、改善点を示して下さい。



14. 成果が出た点	
15. 学びの軌跡 (児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど)	※この単元における学習者の変容が読み取れることを意識して下さい。記入者が文章記述を通して「このように変容した」と教師の言葉でその見取りを書くことも可能ですが、できる限り学習者本人の言葉や作品で示していただくことにより、具体性、説得性の高いものになります。
16. 授業者による自由記述	

参考資料：

※単元を構想、実施する上での教師のための参考資料、学習者のための参考資料、ウェブサイト、データリソースなどを紹介してください。